

CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver
 京都ルネス病院

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年追補
 ■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
◎ 建築物の環境品質								3.3
Q1 室内環境								3.6
1 音環境				3.8	0.15	3.2	1.00	3.7
1.1 騒音				4.0	0.40	4.0	0.40	
1 室内騒音レベル		病棟、診察、スタッフのエリアを明確に分ける		4.0	1.00	4.0	1.00	
2 設備騒音対策				-	-	-	-	
1.2 遮音				4.2	0.40	3.6	0.40	
1 開口部遮音性能		ガラスウールを充てんした、遮音性能の高い壁仕様とする。		3.0	0.40	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能				5.0	0.60	5.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音				3.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境				4.0	0.35	4.2	1.00	4.0
2.1 室温制御				3.5	0.50	3.8	0.50	
1 室温		外断熱を採用		3.0	0.38	3.0	0.57	
2 暑熱対策(暑熱対策)				-	-	-	-	
3 外皮性能				5.0	0.25	5.0	0.43	
4 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-	
5 露点・湿度制御				-	-	-	-	
6 時間外気調へ対応設備				-	-	-	-	
7 脱湿システム				-	-	-	-	
2.2 湿度制御		カサパー(湿式調湿機)を採用		4.0	0.20	4.0	0.20	
2.3 空調方式		病棟に直接風が当たらないよう吹き出し位置を工夫		5.0	0.30	5.0	0.30	
3 光・視環境				2.3	0.25	3.6	1.00	2.5
3.1 屋光利用				1.8	0.30	4.2	0.30	
1 屋光率				1.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口				-	-	-	-	
3 屋光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策				2.0	0.30	4.0	0.30	
1 照度調整の仕組み				-	-	-	-	
2 屋光制御				2.0	1.00	4.0	1.00	
3 眩光対策				-	-	-	-	
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境				4.0	0.25	3.7	1.00	3.9
4.1 発生源対策				4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		内装材にF☆☆☆☆を使用		4.0	1.00	4.0	1.00	
2 ガス汚染対策				-	-	-	-	
3 放射性物質				-	-	-	-	
4 ばいじん対策				-	-	-	-	
4.2 換気				3.5	0.30	3.3	0.38	
1 換気量		全熱交換器を使用		3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能				3.0	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮				4.0	0.50	4.0	0.33	
4 騒音対策				-	-	-	-	
4.3 運用管理				5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		館内禁煙を徹底する。		3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御				5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.4
1 機能性				3.4	0.40	4.4	1.00	3.6
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性		病室は内法平均8㎡/人確保		3.0	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応				3.0	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画				3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性				4.0	0.30	3.5	0.40	
1 広さ感・景観				3.0	-	4.0	0.50	
2 リフレッシュスペース				3.0	-	-	-	
3 内装計画				4.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理				3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		表導線と裏導線を分離する計画としている。		4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理基準				-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.4	0.31	-	-	3.4
2.1 耐震・免震				3.4	0.48	-	-	
1 耐震性		免振装置を採用		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能				5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				2.8	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		耐用年数に応じた材料の選定		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				2.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				4.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	

2.4 信頼性			4.4	0.19				
1	空調・換気設備	カサバにより調整された空気を供給	5.0	0.20				
2	給排水・衛生設備	節水機器を使用	4.0	0.20				
3	電気設備	コージェネレーションシステムを採用	4.0	0.20				
4	機械・配管支持方法	建物全体を免振化	5.0	0.20				
5	通信・情報設備	通信手段の多様化	4.0	0.20				
3 対応性・更新性			3.3	0.29	3.0	1.00	3.2	
3.1 空間のゆとり			4.2	0.31	3.0	0.50		
1	階高のゆとり	病室階高を3.6m確保	5.0	0.60	3.0	0.60		
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50		
3.3 設備の更新性			2.8	0.38				
1	空調配管の更新性		2.0	0.17				
2	給排水管の更新性		3.0	0.17				
3	電気配線の更新性		3.0	0.11				
4	通信配線の更新性		3.0	0.11				
5	設備機器の更新性		3.0	0.22				
6	バックアップスペース		3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.0	
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30			2.0	
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40			3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30			4.0	
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	境界よりセットバックした配置計画	4.0	0.50				
3.2	敷地内温熱環境の向上	可能な限り緑地を確保する	4.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.3	
1 建物の熱負荷抑制		窓回りにトリプルガラスとオーニングを採用	5.0	0.30			5.0	
2 自然エネルギー利用			3.5	0.20			3.5	
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50				
2.2	自然エネルギーの変換利用	太陽光パネルを採用	4.0	0.50				
3 設備システムの高効率化		高効率機器の採用	4.8	0.30			4.8	
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR換算値=32.6%	4.8					
集合住宅の評価								
4 効率的運用			3.5	0.20			3.5	
4.1	モニタリング	使用状況を監視できるシステムの導入	4.0	0.50				
4.2	運用管理体制		3.0	0.50				
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1	
1 水資源保護			3.4	0.15			3.4	
1.1	節水	節水機器の利用	4.0	0.40				
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60				
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67				
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.63			2.9	
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07				
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24				
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20				
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生骨材の路盤利用	3.0	0.20				
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05				
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.24				
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22			3.6	
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68				
1	消火剤	不活性ガス消火剤を使用	4.0	0.33				
2	発泡剤(断熱材等)	外断熱にEPSを採用	5.0	0.33				
3	冷媒		3.0	0.33				
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4	
1 地球温暖化への配慮		屋上緑化等	3.4	0.33			3.4	
2 地域環境への配慮			3.7	0.33			3.7	
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善		隣棟間隔の確保された配置計画	4.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25				
1	雨水排水負荷低減		-	-				
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33				
3	交通負荷抑制	駐車場を整備	4.0	0.33				
4	廃棄物処理負荷抑制	各廃棄物の専用保管スペースの確保	5.0	0.33				
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33			3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40				
1	騒音		3.0	0.50				
2	振動		3.0	0.50				
3	悪臭		-	-				
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40				
1	風害の抑制		3.0	0.70				
2	砂塵の抑制		-	-				
3	日照障害の抑制		3.0	0.30				
3.3 光害の抑制			4.4	0.20				
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	オーニングを採用	5.0	0.70				
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30				